

科目名			産業医学特論		
科目責任者 田中良哉 (研究科長)					
開講時期: 1年次		単位数: 1単位		時間数: 90分× 9回	
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>労働環境に内在する物質的・精神的因子の健康、および労働効率に対する影響について理解を深め、健康被害や労働効率低下に対する対策を講ずる能力を養成し、本学の特色である産業医精神を涵養する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 粒子状物質の健康に対する影響と、その評価方法について説明できる。</li> <li>2) 労働環境と健康との相互関係について説明できる。</li> <li>3) 地域保健の問題点、およびその解決策について説明できる。</li> <li>4) 熱帯地域特有の主な感染症とその予防・治療について説明できる。</li> <li>5) 産業保健に関する政策、およびリスクアセスメントについて説明できる。</li> <li>6) 職場のメンタルヘルスの諸問題について説明できる。</li> <li>7) 生体リズムの変調や睡眠の低下の作業効率に対する影響について説明できる。</li> <li>8) 産業化学物質の中樞神経への毒性について説明できる。</li> </ol>					
● 評価方法		発表等 60%、討論等 20%、レポート等 20%により総合的に評価する。			
● 参考文献		講義の中で必要に応じ紹介する。			

●授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	環境と健康	本講義においては、産業化が進んだ将来を常に考えながら、自然環境、人工環境、労働環境における諸問題に関する科学的知識、生体影響および将来の展望などについて講義を行う。これらを通して我々を取りまく環境側の要因の把握およびその影響についての理解を深め、環境と健康とのかかわりに関する基本および総合的評価ができる研究思考を育む。	辻
2	微粒子の計測、評価とリスク	大気環境中に浮遊するPM2.5や粉じんなどの粒子状物質はエアロゾルと称され、呼吸器を中心に健康に影響を与える可能性がある。特に産業で使用される粒子状物質の吸入曝露による健康障害は産業医学における問題の一つである。これらの健康影響を抑えるためには、大気中に存在している粒子状物質の濃度を計測するとともに、その特性を評価する必要がある。また、その危険性または有害性等の調査(リスクアセスメント)においては許容される濃度を決定し、それを達成するために必要な措置を講じる必要がある。本講義では、微粒子の計測、特性評価と有害性の検討に関する研究事例を紹介することで、エアロゾルとしての微粒子の計測、評価とリスクについて概説する。	東(秀)
3	プレゼンティーズム	体調不良を抱えたまま出社することによって生じる生産性への影響に関心が高まっている。プレゼンティーズムの学術的な背景を理解するとともに、プレゼンティーズムが産業保健にもたらすパラダイムについて、従来の安全配慮義務に準じた産業保健と比較しながら紹介する。	藤野(善)
4	地域保健と環境生態	高齢者就業の広がりや非正規雇用の増大により、地域保険の枠組みで健康管理を受ける国民が増加していることを踏まえ、現行システムの問題点及びその解決策について総合的に検討する。	松田
5	熱帯の感染症	産業医として海外派遣労働者の健康管理を行うに際し、わが国では見られないが現地では普通に見られる感染症の知識は必須である。本講義では熱帯地域で留意すべき感染症の基礎知識を、寄生虫症を中心に環境との関連を交えて講義する。	長田

回	項目	内容	担当教員
6	産業保健政策、産業医活動の倫理	<p>1)わが国における産業保健に関する政策の歴史と特徴を概説する。</p> <p>2)労働衛生分野で適用されるリスクアセスメントの概念について概説し、特に、リスクの見積りとリスク低減対策の優先順位について具体的に説明する。</p> <p>3)産業現場で優先的に取り組むべき課題を指摘し、近年の対策動向を概説する。</p> <p>4)産業医に期待する専門性と倫理について、企業と労働者との利害バランス及び就業と健康との倫理ジレンマに触れながら概説する。</p>	堀江
7	職場のメンタルヘルス	<p>職場のメンタルヘルスをマネージする上での基本的な精神疾患の知識や診断・治療方針などについて学ぶ。精神疾患やメンタルヘルスについての臨床薬理学的な基本的知識についても学ぶ。職場のメンタルヘルスをめぐる諸問題や昨今の動向についても取り上げる。</p>	新開
8	産業睡眠医学	<p>産業現場において、生体リズムや睡眠の問題により、労働者の作業効率などに対する影響や健康上の問題が引き起こされることが明らかになってきている。本講義ではまずそのような問題点について解説したのち、ヒトの生体リズムおよび睡眠の生理学的機構について講義する。さらに産業現場における生体リズムや睡眠の問題の調査方法、そして問題解決のための基礎医学的なアプローチの方法について具体的な例をあげて解説する。</p>	藤木
9	化学物質による産業中毒の現状と課題	<p>化学物質、特に産業化学物質の曝露によって生じる産業中毒について、日本における代表的な事例とともにその毒性ならびに毒性機序について概説する。また当該化学物質に関連した法令等についても説明し、現在の日本における化学物質の管理体系を理解する。さらに動物モデルを用いた毒性評価方法を紹介し、これを踏まえて現行の毒性評価試験に関する今後の課題について理解する。</p>	上野